

会議名	CAFEO35/YEAFEO24
日時	2017年11月16日(木)～11月18日(土)
場所	Bangkok, Thailand
参加者	青年委員 : ●萩尾(記)、●白井、●明山、田中(仁)、竹内、滝口 元青年委員 : 田中(雅)、北元 一般 : 西田、力石、塚越、小梶、園家 (● : 公費派遣者、敬称略)
参加者数	13名

1. 目的

- ・若手技術者の国際感覚の育成
- ・ASEAN 諸国の技術者との人脈構築
- ・二国間交流の推進
- ・当該会議への継続参加による日本のプレゼンス強化
- ・ASEAN 諸国の技術活動に関する情報収集

2. 概要

会議名 : CAFEO35 (The Conference of the ASEAN Federation of Engineering Organizations 35)
 YEAFEO24 (The Young Engineers of the ASEAN Federation of Engineering Organizations 24)
 期間 : 2017年11月16日(木)～18日(土)
 場所 : Queen Sirikit National Convention Center(QSNCC), Bangkok, Thailand

3. 主日程 ※ 基本的に YEAFEO プログラムに参加し、空いた時間に CAFEO プログラムに参加した

Date		Program
11月16日	AM	[CAFEO/YEAFEO] Registration
		[CAFEO] Working Group (以下グループに分かれてセッションを行った)
		Transportation, Education & Capacity, Energy
		Disaster, Sustainable Cities, Environmental, AEI-Electrical
	PM	[YEAFEO] Technical Visit (G-Tower)
		[YEAFEO] MTG
		[CAFEO/YEAFEO] Opening Ceremony
		[CAFEO/YEAFEO] Welcome Dinner
11月17日	AM	[CAFEO] Country Report
	PM	[YEAFEO] Country Report & Exchange of Souvenirs
		[YEAFEO] Networking
11月18日	AM	[YEAFEO] Outdoor Activities
	PM	Free Time
		[CAFEO/YEAFEO] Farewell Dinner

4. 成果

4. 1 若手技術者の国際感覚の育成

- ・海外の技術者と直接対話することで、英語でのコミュニケーション方法を肌で感じる事が出来た。
- ・英語での議論に参加することにより、英語に対する苦手意識を軽減し、英語勉強のモチベーションアップにつながった。
- ・ASEAN 諸国の文化について見識を深めるすばらしい機会をもつことができた。

4. 2 ASEAN 諸国の技術者との人脈構築

- ・YEAFEOに参加した各国の技術者と SNS 等を交換して連絡を取り合うことが出来るようになり、良好な人間関係を築くことができた。会議後も、継続的に SNS 等を利用して連絡を取り合っている。

4. 3 二国間交流

- ・青年委員会ではないが、Philippine の大学准教授から交流したいとの申し出があり、名刺交換を行った。
- ・香港の参加者である King Cheung 氏経由で HKIESC(The Hong Kong Institution of Engineers Student Chapters)から日本見学のサポート依頼があった。
- ・マレーシアから 2 件、日本訪問時の食事の誘いがあった。

4. 4 継続参加による日本のプレゼンス強化

- ・Country Report 時、日本派遣団から各国に先駆けて質問し、日本の存在感を示す一幕があった。
- ・日本の Country Report 発表において会場から拍手を頂き、好印象であった。
- ・Farewell Dinner 時は、毎年、各国それぞれ独自の民族衣装など文化に合わせた衣服を身に着けることになっているが、特に日本の空手道着および浴衣は大変好評で、多くの方々から写真撮影を求められた。技術面だけでなく、文化面でも日本の存在感を示すことが出来た。

4. 5 ASEAN 諸国の技術活動に関する情報収集

- ・技術者教育においては、国によって方法の差はあるものの、比較的若い年齢層(特に学生)から技術者の養成を実施するシステムを確立している国が多い。
- ・海外の技術者はインフラ関係の専門の方が多く印象。積極的に建築の技術を取り込もうとする姿勢を感じた。

5. 活動詳細

5. 1 11月15日

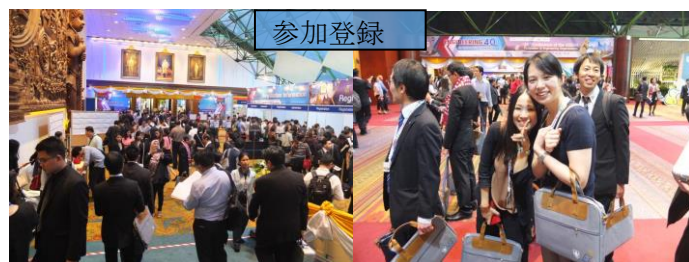
各自で現地入りをし、顔合わせを兼ねて現地レストランで夕食をとった。翌 16 日の予定確認を実施した。参加できていないメンバーへはメッセージのメーリングリストを活用して翌日の集合時間等の予定を共有した。



5. 2 11月16日

(1) CAFEO/YEAFEO 参加登録

当日現地入りのメンバーとは、ホテルのロビーで合流した(大半のメンバーは同じホテルに宿泊した)。8時に全員で会場入りをし、参加登録を行った。参加登録は、参加費を現地支払いとしたこともあり、時間を要した。(事前支払いは参加登録時スムーズに動けるが、急遽参加出来なくなった場合は払い戻しが出来ないため、現地払いか事前払いのどちらを選択するかは検討が必要。現地払い時を選択した場合は、早めに会場入りした方がよい。)



(2) CAFEO ワーキンググループ(WG)への参加

参加登録後の 10 時頃から、各自興味のある WG に参加した。WG の議題を事前に入手できなかったため、議題を把握するのに時間がかかった。議論に参加するためには事前に WG の情報を入手する必要があると感じた。以下に各 WG の内容を示す。



(Education & Capacity)

各国での技術者の教育システムについての紹介が行われた。細かく段階がわかれており、学生の間から少しずつステップアップするように教育している国が多かった。CPD は各国でも取り組まれていた。

(Disaster)

国際委員会の稲垣氏と合流した。全員一言ずつの自己紹介から開始した。最初の議題は、ASEAN 各国から固定メンバーの選出であった。毎年、メンバーが入れ替わってしまい、議論が進まないため、主要メンバーを決めるとのこと。

その後、各国の災害に対する取り組みが紹介された。タイではスマートフォンの OS(Android)向けのアプリを開発し、警告が配信される仕組みを作っていた。各国ともに台風の被害が大きく、台風対応マニュアルの作成など日本の取り組みを参考にしたいという話が挙げられていた。急遽、日本の意見を求められる場面があり、ひやりとする場面があったが、稲垣氏に対応して頂き事なきを得た。英語能力のなさを反省させられる一幕であった。

(Sustainable Cities)

ASEAN の各代表者(日本は含まず)のみを中心に議論が開始され、それ以外の参加メンバーは後ろで傍聴する形式であった。まず座長(シンガポール)より各国に対して、「持続可能な社会とインフラについて、どのような取り組みをしているのか？情報共有していきたい」という問いかけがあった。しかし各国代表者からは、この会議の目的は何か、情報共有をしてその後どのように対応を進めていくのか、ガイドラインを作成したほうがよいのではないかと等、本題に入る前の議論・意見交換が続き、会議は終了した。

(Environmental)

全員一言ずつの自己紹介から開始した。各国の環境改善に対する取り組みが紹介された。例えば、フィリピンでは浄水についての取り組みが説明された。YEAFFEO Technical Visit の集合時間の関係上、残念ながら本 WG は中座する形となった。

(Energy)

各国のエネルギー消費量とその内訳、今後の需要見通しおよびエネルギー政策について紹介が行われた。

いずれも旺盛な需要の伸びが予想され、エネルギーインフラ整備、再生可能エネルギーやグリーンエネルギーの活用、省エネに関する積極的な姿勢が見られた。

これらに関して日本の技術が貢献できる部分があるのではないかと感じた。

(3) YEAFFEO Technical Visit

午後から、YEAFFEO Technical Visit に参加した。参加人数は YEAFFEO 全メンバーの半数程度であった。

CAFEO 事務局手配のバスに乗り、会場へ移動した。バス内では昼食も用意されていた。

Technical Visit では、建物が「G」の形をしている G-Tower という建築物について学んだ。

初めに設計者から建物の構造等についての貴重な説明を聞くことができた。

その後、G-Tower の見学をしたが、G-Tower 内には入らず、外から見るだけであったことが残念であった。



(4) YEAFEO MTG

Technical Visit 後の 16 時頃から、YEAFEO MTG に参加した。会議室が狭かったため、日本からは公費派遣者が優先的に中に入った。席の空き状況を確認し、最終的には日本全メンバーの半数程度が参加することができた。毎年会議形式が異なるとのことで、本年度は、オブザーバー国は会議の輪の中に入ることが出来ず、部屋の端の席での傍聴のみであった。ASEAN 諸国のみ自己紹介を実施し、日本の紹介の機会はなく、寂しい思いであった。MTG 内容は YEAFEO の規定内容の改訂等の運営に関するものが大半であった。



(5) CAFEO/YEAFEO Opening Ceremony & Welcome Dinner

18 時から Opening Ceremony が開催された。タイ国王が来賓するため、厳密な Security Check が 16 : 30 から行われた。YEAFEO MTG 参加組は MTG が長引いたために Security Check に間に合わず、外で列を作って待機となり、Ceremony には参加できず、Welcome Dinner からの参加となった。Opening Ceremony 参加組は別室でモニタを通して Ceremony を見た。Opening Ceremony 終了後、Welcome Dinner が始まり、各国の参加者との交流を深めた。Dinner 後は YEAFEO 参加者同士の任意の Drinking party に参加した。各国の参加者の人となりを知り、打ち解けることができた。



5. 3 11月17日

(1) CAFEO Country Report

午前中は CAFEO の Country Report の聴講が主であり、各自自由行動とした。自由行動中は、CAFEO Country Report に参加する者や、バンコク周辺を探索する者、当日午後に YEAFEO で発表する日本の Country Report の内容をブラッシュアップをする者等、三者三様であった。

(2) YEAFEO Country Report

午後から YEAFEO Country Report に参加した。各国の青年員会の一年間の活動報告を行った。タイではシニアと若手の意見交換を行う等の各国が興味深い活動を行っており、今後の活動の参考となった。日本派遣団から質問をすることで、日本の存在感を増すことができた。日本の発表は活動方針、本年度の具体的な活動内容を説明した。最後に、今後も積極的に国際交流を行いたい意向を示し、各国メンバーから拍手が上がった。



(3) YEAFEO お土産交換

Country Report 後、各国間でのお土産交換を実施した。お土産は、その国のランドマークタワーの置物等、その国の文化が分かるような工夫を凝らした物であった。お土産交換は 2 カ国ごとに行われ、交換時には写真撮影を行った。写真撮影の待ち時間を利用して、個人的なお土産交換も行った。



(4) YEAFEO Networking

YEAFEO 主催の Dinner に参加した。CAFEO 事務局手配の大型タクシーに 1.5 時間程度乗り、リバーサイド近辺の会場へ移動した。参加人数は YEAFEO 全メンバーの半数程度であった。参加人数としては多すぎず少なすぎずという感覚で、参加者間でゆっくり話すことができた。Dinner はタイ料理ビュッフェで、食事の際にタイの伝統的な踊りを見ることが出来た。レストランはショッピングモールの中にあり、食後は小 1 時間程度モール内で自由に買い物をする事が出来た。買い物後は集合し、CAFEO 事務局にて手配済の大型タクシーに乗り、ホテルに戻った。



5. 3 11月18日

(1) YEAFEO Outdoor Activities

朝から夕方までタイの王宮周辺と運河ツアーに参加した。参加人数は YEAFEO 全メンバー2 割程度であった。(タイ：3~4 名、シンガポール：1 名、カンボジア：4 名) 少人数であったため、全員とコミュニケーションをとることが出来た。イベント名の通り、屋外を移動することが多かったため、30℃を超える炎天下にさらされ、体力的にやきつツアーであった。しかしタイの有名な寺院を巡ることができ、タイの文化を知る貴重な機会となった。

昼食は、タイ料理のビュッフェを楽しむことができた。



(2) Farewell Party の出し物の練習

ツアー終了～Farewell Dinner までは自由時間であったため、ホテルに戻った後、出し物の最終合わせを行った。

今年は、空手&フォーチュンクッキーダンスを行うため、空手の板割の順番、踊りの確認を行った。

(3) Farewell Dinner

18 時頃から Farewell Dinner に参加した。各国の参加者は民族衣装を纏い、とても華やかな雰囲気であった。日本は空手の道着や浴衣、法被を着た。来年度は衣装にもう少し力を入れたい。浴衣の人气が高く、写真を一緒に撮って欲しいと引っ張りだこになった。

Dinner の最中に各国の国旗交換も行った。日本は計 60 本程度の国旗を用意し、丁度良い量であったと感じた。

各国の出し物の際、ステージに呼ばれ一緒に踊る場面があったが、その際に自国の国旗を持って踊るメンバーが多かった。自国の番が終わると帰って行く参加者も多い中、各国 YEAFEO メンバーは最後まで残り、日本の出し物を盛り上げてくれた。

事前に日本の出し物の際に一緒に踊って欲しい旨をアナウンスした事が功を奏した。



6. 考察および今後の課題

《会議への参加》

- ・ オブザーバー国であるが故に、会議前に自己紹介すらさせてもらえない状況があった。会議資料も配付されず、一切内容がわからない状況に陥った。(10 数年参加されている園家氏の機転により、会議の途中で資料が入手できた。) 会議の内容を事前に把握するためにも、ミッドターム MTG に積極的に派遣したい。
- ・ 日本で言う“修習技術者”の段階から YEAFEO 等の国際会議等へ積極的に派遣している国もあった。技術者としての実績を積み、青年を卒業してそのまま CAFEO へ参加する流れが出来ていた(日本は青年を 45 歳以下と定義しているが、ASEAN 諸国では 35 歳未満を青年としている)。国際的な視点を持つことができる若手技術者を育てる必要があると考える。例えばインフラのように現地でも利権が絡みやすいビジネスに関しては、その地域の文化・習慣に精通し、地域のやり方に沿った解決策を出す必要があると考えるが、CAFEO への参加はそれを可能にする人財を育てることが出来ると考える。そのため、日本からも社会人 2~3 年目の若手技術者を積極的に派遣したい。各国からも若手が来ているため、同年代同士の方が、交流が進むと感じる。将来、各国を代表することになるであろう技術者と、若手のうちから親密な関係を築くことは 10 年後、20 年後の日本にとって大きな財産になると感じる。
- ・ 他国の PE は基本的に CAFEO に参加しており、YEAFEO への参加は少ない。なぜ PE なのに YEAFEO にでるのかと聞かれる場合があった。YEAFEO と CAFEO 間の年齢のギャップがある。CAFEO になると年齢層が急に高くなり、中間層がない。YEAFEO を卒業した後に CAFEO に参加している人が他国においても少ない。オブザーバー国である日本が積極的に CAFEO に参加し、YEAFEO から CAFEO への流れを作ればと考える。現状では本活動が単発で終わっているため、本活動が長期的につながるような流れを作っていきたい。

《情報共有》

- ・ 昨年の CAFEO34 不参加であったこともあり、CAFEO についてのノウハウが一部受け継がれなかったため、参加準備に手間取ることがあった。可能な限り明文化しておく必要がある。暗黙知等も文書化することで、確実に引き継いでいきたい。
- ・ 個人情報の取り扱いは、名前とメールアドレスを残して他の情報は削除する。

- ・ 当日日程変更する事もあるため、現地では各自で WiFi を用意し、常に連絡を取れるようにしたことがよかった。連絡には Facebook のメッセージを活用した。各自の連絡の確認有無を把握できるため有効であった。
- ・ Chairman メッセージには、連絡漏れを防ぐため（会議当日は頻繁に連絡を取り合う）に派遣団のリーダーとサブリーダーの少なくとも二人は登録する必要がある。

《会議》

- ・ 参加者のスケジュール管理や、会議室のスムーズな確保のために会議日程を予め決めておき、会議室を予約しておくといよい。今年は参加希望者 MTG1 回、準備 MTG4 回、振り返り MTG1 回実施した。
- ・ 準備において Facebook の CAFE035 ページを立ち上げ、連絡事項等のファイルをアップロードした。しかし、アップロードファイルは時系列順に表示されるため、必要なファイルがすぐに探せず、不便であった。今後は Dropbox 等のストレージを使用した方がよい。もしくは、ファイル保存用に、もう一つ別の Facebook ページを立ち上げて併用する等の対策が必要であると認識する。加えて、それらファイルアップロードのルール作りが必要であると認識する。
- ・ 地方からの参加者への対応が不十分であった。居住場所によって機会が左右されないようにしたい。来年以降、Skype 等の活用、地域本部との連携を強化していきたい。

《予算》

- ・ 予算は、使用する度に追加していく形であった。より有効な予算使用のために、今後は予め予算配分を決めておくといよい。

《ホテル》

- ・ ホテルは、日本メンバーにて打ち合わせする機会が多いため、全員同じホテルがよい。同じホテルでなくとも、少なくとも歩いて行ける距離がよい。また、着替えたり、物を取りに行くことがあるので、ホテルは会場の近場がいい。ホスト国おすすめのホテルが良い。

《カントリーレポート》

- ・ カントリーレポートの内容を来年は変えていきたい。今年は状況がわからなかったため、日本に来て欲しいことをアピールしたが、来年は細かい取り組みを紹介してもよい。例会の内容をもう少し詳細に説明してもよいかもしれない。

《名刺》

- ・ 漢字文化圏の国も参加しているので、名刺に漢字名を書いてよかったかもしれない。顔と名前を一致させるために、顔写真は必ず入れた方がよい。その他、Facebook のアカウントや IPEJ の表記、QR コードを記載しても良いかもしれない。

《お土産》

- ・ お土産は運搬の負担を鑑みて、かさばらないものがよい。カンボジアから貰ったリストバンドは、その場でつけられるのでよかった。個人お土産の数は 77 個(一人 5 個ずつ)を準備したが、少し多かった。来年は一人 3 個ずつでよいと思う。日本製のお土産を持って行ってよかった。
- ・ 会議当日、インドネシアがお土産交換時にいなかった。余ったお土産を他に配ってしまったが、次の日にインドネシア単独でお土産交換を実施した。当日にいない場合もお土産を残しておく必要がある。

《国旗》

- ・ Farewell party の時の各国との交換用の旗の数(58 本)はやや多かった。また、今回大きいサイズと小さいサイズの旗を用意したが、大きいサイズの旗は持ちにくいので、少なめでよい。足りなくなった場合は、他国には旗はもう無いと断っても構わない。

《出し物》

- ・ Farewell party の出し物の音楽は、音楽をかけるタイミングが難しく、音楽を操作する担当者が混乱するため、出し物の各パートに分けて用意した方がよい（音楽無しの場合は設定しない方がよい）。
- ・ Farewell party の日本の出し物をやる前に、Chairman のメッセージでみんなに集まってもらうアナウンスをすると、出し物がより盛り上がる。

《その他》

- ・ 企業に勤めていると、CAFEO に参加するための休暇が取りにくい。招待されたというと参加しやすい。青年から委員長名でインビテーションを発行してみるのも良いかもしれない。
- ・ 年に 1 度程度、OB/OG も含めた意見交換会を実施してもよい。その場で、YEAFOE および CAFEO の情報共有をしていきたい(YEAFOE の OB/OG が CAFEO で活躍していることが望ましい)。

- ・ 海外から学ぶだけでなく、行動を共にした日本派遣団の技術者から学ぶことも多かった。海外においては、必然的に密接な関係になるため、帰国後も良好な関係を続けることができる。信頼関係で結ばれた技術者を得られることは、CAFEO 参加の大切な副産物と考える。
- ・ 純粋な英語力だけでなく、文化的背景等も考慮したコミュニケーション能力が必要であると感じる。相手の国についての勉強はもちろんのこと、実際に対話する経験が大切であるとする。今後は参加人数を増やし、とにかく経験を積み場として提供していきたい。英語でのプレゼンテーションも同様と考える。

7. 所感

<萩尾>

ASEAN 諸国は英語が当たり前のように使われており、英語が堪能でない私は会話に入れないという悔しい思いをしました。日本の存在感を示すためには英語能力は必須で、積極的に発言していくべきだと痛感しました。そう思う一方で、伝えたい気持ちさえあれば、相手も必死にきみ取ってくれることが多く、大まかな内容は伝わることも多いと感じます。海外の技術者と交流でき、また国内の技術者と信頼関係を構築できたことはとても貴重な体験となりました。参加することで、国際活動への方向性が見えました。今回は渡航のチャンスを与えて頂きありがとうございました。納期月にも関わらず温かく送り出してくれた職場の皆様、生まれたばかりの子供の面倒を一人で見てくれた妻に感謝申し上げます。

<白井>

ASEAN 諸国のエンジニアは英語の教科書で勉強してきたということもあり、全般に英語に堪能な方が多い印象でした。タイに行くならタイ語が必要ということではなく、何処に行くにも英語が必要ということを実感いたしました。あるミャンマーのエンジニアは、「学生時代に JICA から支援を受けて第二東名高速道路の建設現場を見学させてもらった、今度は仕事で日本に恩返ししたい、大変感謝している」と熱心に語ってくれました。あるマレーシアのエンジニアに、「中国北部では深刻な大気汚染が続いているが、マレーシアはどうか」と聞いたところ、「インドネシアから来る煙が話題になることはある。」などと、環境問題についても意見交換できました。あるタイのエンジニアからは、「日本の温泉に行きたい。お勧めを教えてください。」と、日本の文化への関心の高さもよく分かりました。タイも CAFEO も初めてのことでしたが、多くの会話ができ、貴重な経験をさせていただいたと感謝しております。日本技術士会は ASEAN 側から招待されてオブザーバ参加させていただき立場として、注目されることもわかりました。ASEAN 諸国の参加者に 1 つでも良い影響を与えられるように、交流を継続して広げられたら素晴らしいことだと感じています。

<明山>

今回私は 2015 年の開催国マレーシアに引き続き 2 回目の参加となった。そのため 2 年ぶりに再会できた海外メンバーもおり、さらに交流を深めることができた。海外の技術者と直接交流する機会は、このような国際会議以外には中々ないため、引き続き国際会議へ参加すると共に、仲良くなった技術者を日本へ招く又はこちらから相手国へ出向くなど、引き続き国際交流の活動を広げていきたい。本国際会議へ参加するにあたり、社会人にとっては、普段の通常業務をストップまたは一時引継ぎが必要等、職場の理解が十分必要である。そのため、社会人よりも比較的休日を得やすい学生達にも積極的に参加してもらい、若いうちから刺激を得て、技術者になるためのモチベーションをアップしてもらうことが重要だと考える。



日本派遣メンバー集合写真

以上